

ぼくらが旅をする理由

ぼくは旅が好き。

だって旅に出ると、ぼくはぼくじゃなくなるのだ。

旅に出ると、だれもぼくのことを「トト」だなんて思わないのだ。

旅に出ると、だれもぼくのことを心配しようだなんて思わないのだ。

ぼくは、誰にとつての、誰でもなくなるのだ。

誰にとつての、誰でもなくなると、ぼくは帰りたくなるのだ。

帰って、ぼくのことを「トト」って呼んでもらいたくなるのだ。

旅に出ると、ぼくが「トト」なのが、とても嬉しいことなんだって、分かるのだ。

だから。

「……ぼくは、帰るために旅をしているんだと思う」

長い長い時間をかけて、トトはエバンナの問いかけに答えました。トトの考えるのが長いのは、エバンナにとって慣れたもの。それは別に気にならなかったけど、質問の返事は気に入りません。

「帰るために旅なんてすんじやないわよ、このバカっ」

「あいたっ……。うう……じゃあ、エバンナはどうして旅をするの？」
「あたし？ 手に入れるために決まってるじゃん」

エバンナは胸を張って、そう答えました。

トトには、エバンナの言おうとする事がよく分かりません。一体、なにを手に入れるっていうんだらう？ という顔で首をかしげていると、エバンナは不機嫌そうな顔でこう言いました。

「トンチキなあんたには理解できないでしょうけど、生きるってのは、出来るだけたくさん手に入れようとする事なのよ。あたしが旅が好きなのは、それ。旅をしようとたくさん、手に入るからなのよ」

「……ふうん。旅をすると、たくさん、手に入るのかあ」

なんて相槌を打ったけど、やっぱり、トトにはよく分かりませんでした。旅をすると、何がたくさん手に入るんだろう？ トトは自分のことで考えてみず。ぼくは旅をするけれど、何も手に入れようとは思わないなあ。それとも旅をしたぼくは、知らないうちになにかを手に入れているのかなあ？

……やっぱり、やっぱり、分かりません。

でも考えているうちに、思い浮かんだことがあったので、エバンナに聴いてみることにしました。

「でもエバンナ。そんなにたくさん手に入れてたら、重たくなって、そのうちおうちに帰れなくなっちゃうんじゃないかなあ？」

「おうちに帰れなくなったら、エバンナは困らないの？」というトトの問いかけに、エバンナは少しだけ動揺します。た、確かに、おうちに帰れなくなったら困るわ……。パパやママにも会えなくなるし。ペットのカトリ